

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

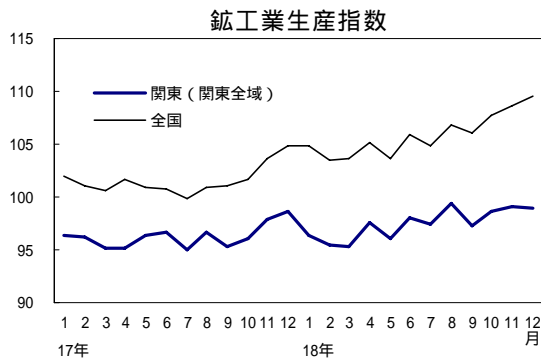
#### 前回調査からの主要変更点

|      | 前回 (平成 18 年 11 月) | 今回 (平成 19 年 2 月) |  |
|------|-------------------|------------------|--|
| 住宅建設 | おおむね横ばい           | 増加               |  |

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鋳工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、発電機などに使用する蒸気タービンは好調であったものの、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が伸び悩んだため、減少している。化学は、フェノール・酸化プロピレンなどの樹脂原料が好調であったものの、合成洗剤が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、前期の反動で鋼船が不調であったものの、乗用車に使用する駆動電動加操縦部品が好調であったため、三四半期連続で増加している。情報通信機械は、携帯電話の新規モデルが好調であったため、増加している。電気機械は、自動車向けのモーターなどに使用するアルカリ蓄電池が減少したものの、半導体IC測定器が好調であったため、増加した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年12月の関東は速報値。

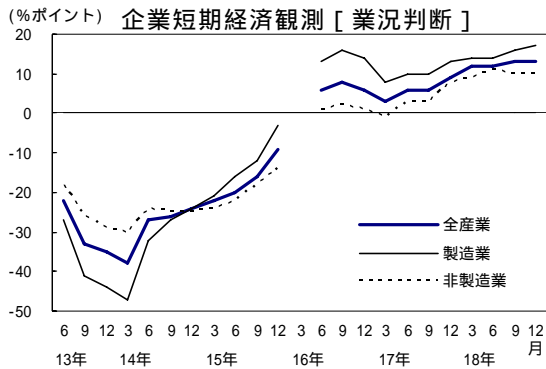
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

|        | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |             | 出荷          | 在庫          |
|--------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
|        |              | 7~9<br>月期 | 10~12<br>月期 | 10~12<br>月期 | 10~12<br>月期 |
| 一般機械   | 13.8         | 0.5       | 1.7         | 1.9         | 5.0         |
| 化学     | 13.7         | 3.3       | 1.0         | 1.0         | 0.5         |
| 輸送機械   | 11.3         | 1.3       | 3.9         | 4.0         | 5.2         |
| 情報通信機械 | 8.6          | 0.1       | 5.5         | 3.2         | 3.9         |
| 電気機械   | 7.9          | 0.0       | 3.4         | 4.1         | 0.5         |
| 鋳工業    | 100.0        | 0.7       | 0.9         | 1.2         | 1.1         |

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10~12月期は速報値。  
3. 10~12月期の化学の生産、出荷は、10月、11月確報値の平均より算出。在庫は、11月確報値。

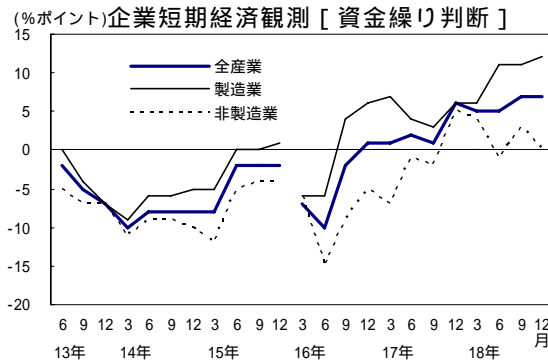
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



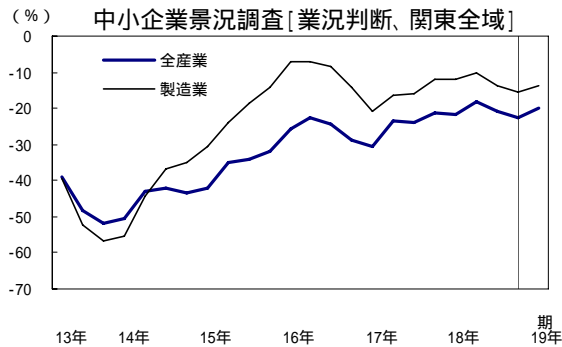
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。  
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「暖冬の影響は様々であるが、天然スキー場の降雪量が少ないため人工スキー場の来場者が多くなっており、活況を呈している。遠隔地からの客もかなり来ている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

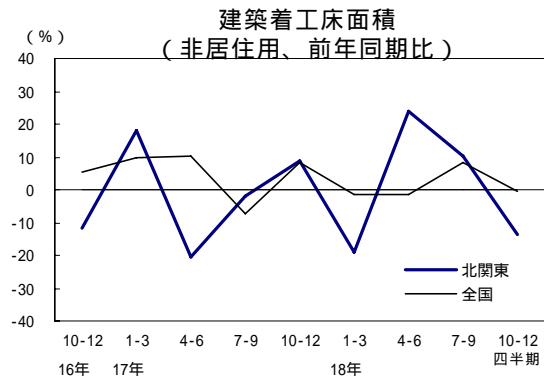
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

|      | (前年度比、%) |            |
|------|----------|------------|
|      | 17年度実績   | 18年度計画     |
| 全産業  | 26.9     | 3.7( 4.7)  |
| 製造業  | 12.4     | 32.2( 8.5) |
| 非製造業 | 99.0     | 32.2( 0.6) |

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

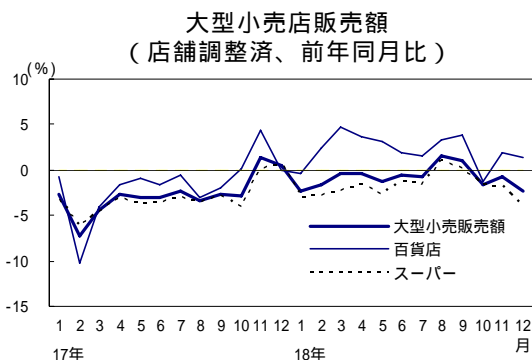
(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、移転改装効果の継続により、婦人靴、アクセサリー等の身の回り品や家庭用品に動きが見られたものの、気温が高めに推移したことから冬物衣料が伸び悩み、9か月ぶりに前年を下回った。11月は、中旬を除き気温が高めに推移し、冬物衣料が不振であったものの、身の回り品や歳末ギフト商戦の前倒しが好調であったため、前年を上回った。12月は、暖冬の影響により衣料品全般が苦戦したものの、催事・改装効果により、引き続き婦人靴やアクセサリー等の身の回り品が好調であったことから、2か月連続で前年を上回った。スーパーは、暖冬による衣料品の不振や、多雨による来店客数の減少等により、期を通じて苦戦し、全体としては前年を下回った。

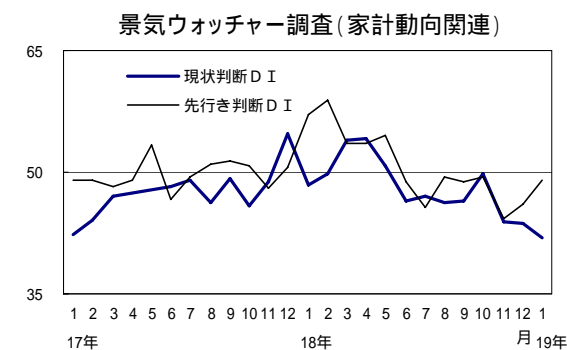
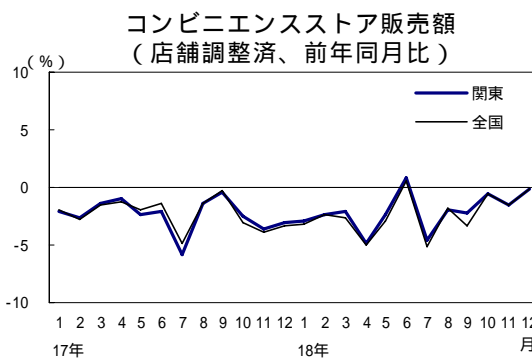
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「年初めは好調であったが、10~20日までのランチタイムの来客数が極端に少なく、サラリーマンやOLは少しでも安い弁当やコンビニに流れている(高級レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



|          | (前年同期比、%) |      |      |        |
|----------|-----------|------|------|--------|
|          | 18年1-3月   | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 |
| 大型小売店    | 1.4       | 0.7  | 0.6  | 1.7    |
| 百貨店      | 2.2       | 2.9  | 2.7  | 0.7    |
| スーパー     | 2.8       | 1.9  | 0.1  | 2.6    |
| コンビニ     | 2.4       | 2.2  | 3.0  | 0.7    |
| 景気ウォッチャー | 50.7      | 50.4 | 46.6 | 45.7   |

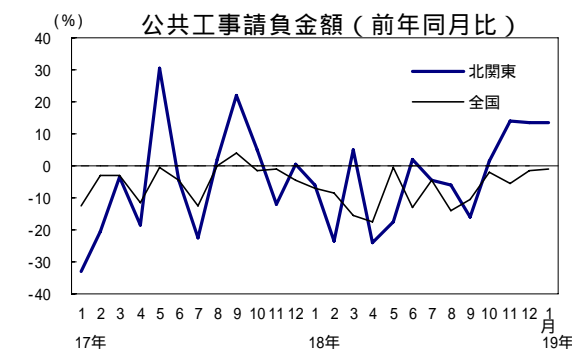
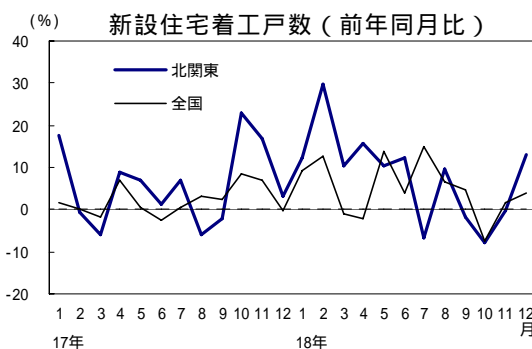
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

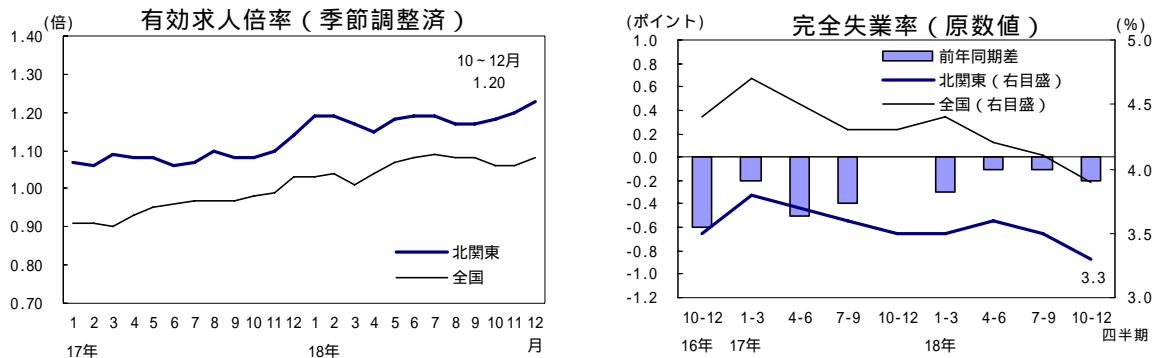


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

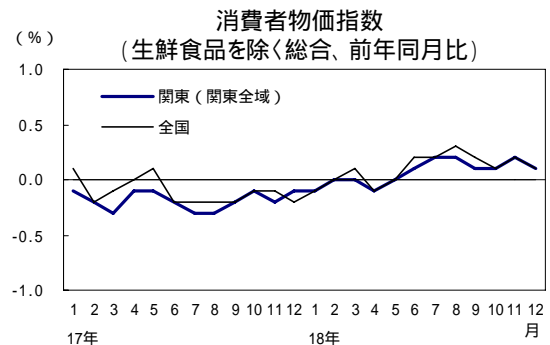
「年が明けても相変わらず人材派遣、業務請負の募集が多く、正社員募集は極端に少ない。周辺の大手企業では、春の新卒採用を控え、この時期は社員の募集はほとんどない(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

|               | (件、億円、%)    |            |            |               |             |
|---------------|-------------|------------|------------|---------------|-------------|
|               | 18年1-3月     | 4-6月       | 7-9月       | 10-12月        | 19年1月       |
| 倒産件数<br>(前年比) | 184<br>11.5 | 153<br>7.8 | 157<br>4.7 | 191<br>20.9   | 60<br>5.3   |
| 負債総額<br>(前年比) | 946<br>6.1  | 944<br>6.9 | 819<br>7.7 | 1,406<br>40.6 | 329<br>10.1 |



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 昨年の暮れより会員権の問い合わせ等が多く、会員権売買の動きが加速している。また、相場も上昇傾向である (ゴルフ場)

<先行き>

- ・ 団塊の世代がリタイア後に最もしたい事のアンケートで、第1位が国内旅行とあったが、それほど動きがない。孫の世話や息子、娘達への生活補助、社会保障のせい弱さによる将来への不安などで、レジャーに消費するより貯蓄傾向にある (観光型ホテル)

景気ウォッチャー調査 (合計)

